



誰もが安心して暮らせるまち



市民と市長が高崎のさまざまなテーマで語り合う「ほっとTタイム」。今回のお相手は、聴覚障害のある松岡誠夫さんと、視覚障害のある堀口洋子さんです。堀口さんのパートナーは、盲導犬ルドルフ君です。「誰もが安心して暮らせるまち」をテーマに、まちを歩いて感じることや、障害に対する周囲の理解などについて、手話通訳者を交えて話を伺いました。



堀口 洋子さん
高崎市視覚障害者福祉協会の会員。
上中居町在住。

障害があっても積極的に行動することが大事

市長 堀口さんは盲導犬を連れていますが、お名前は？
堀口 ルドルフといいます。私のパートナーになって3年です。
市長 かわいくて頭をなでたくありませんね。でも、盲導犬が仕事をしているときは、かわいがつてはいけませんよね？
堀口 はい。集中力が切れてしまうのです。
市長 ルドルフ君とはよく出かけますか？



堀口 私は買い物が好きで、この子連れてよく出かけます。ただ、盲導犬と一緒に入れないお店もまだ結構あって…。

市長 盲導犬はテレビ番組などでもよく見るし、品行方正だということも皆知っていると思っていました。お店の反応は違うのですか？

堀口 飲食店などでは、今まで例がないからという理由で断られてしまうこともあります。盲導犬を連れている人は、市内では私を含め4人しかいません。まだまだ知られていないのかもしれないですね。

市長 4人ですか。意外に少ないのですね。堀口さんとルドルフ君にもっと出かけてもらった方がいいかな(笑)。ところでお二人は、仕事は何をされているのですか？

堀口 私は鍼灸の仕事をしています。私が、10年ほど前に引退しました。
松岡 私は機械メーカーの会社で組み立ての仕事をしています。今年で25年目になります。

市長 松岡さんは、職場の同僚社員との会話はどうしていますか？



富岡 賢治 市長
市民一人が安心して暮らせるまちについて考えている。

市長 そういう意味で、ヨーロッパの人はちょっとした気遣いが上手です。日常生活でも、席を譲るとかドアを開けるとか、自然に振る舞える。私たちも見習うべきだと思いますね。

堀口 そうですね。ルドルフと歩いていると、小さいお子さんにお母さんが「今このワンちゃんはお仕事しているのよ。怖くないのよ」と話していることがあります。きちんと話す子どもも理解してくれそうです。

市長 教育の場で話していくことは大事ですね。障害について理解すれば、相手の気持ちを考え、自然に振る舞えると思います。本日はありがとうございました。

堀口・松岡 ありがとうございました。

松岡 身ぶり手ぶりか、筆談です。今は、特に問題はありません。でも勤め始めのころは、周りと話を通じなくて大変でした。自分から積極的に飲み会にも参加して、信頼関係を築いていくことが大事ですね。

市長 私は障害者協会の集まりにも参加させていただきますが、皆さん元気で明るいんですね。障害のある方は人一倍努力をされているのでガッツもあるし、十分職場で働いていると思います。雇用の問題も大事ですね。

松岡 そうですね。若い人がほとんど働ける場所が必要ですね。

道を歩いていて一番怖いのは自転車

市長 障害のある方に関する政策は、優先的に考えていくべきだと思います。高崎のまちで気になるところはありませんか？例えば、案内の表示や道路はどうですか？

松岡 私は、まさに文字表示が少ない気がします。以前、台風が来て電車が止まってしまったことがありました。放送などで説明はあったのでしょうが、私は耳が聞こえないので理由が分からなくて困りました。

市長 障害のある方への情報の伝え方を、もっと考えないといけないですね。特に、災害時や緊急時のね。

松岡 耳が聞こえても聞き逃すことはあると思うので、文字表示があれば助かると思います。



松岡 誠夫さん
NPO法人高崎市聴覚障害者協会副理事長。浜尻町在住。

障害について理解すればもっと自然に振る舞えるのでは

市長 10月に「障害者虐待防止法」という法律ができて、市も相談窓口を開設します。障害者の虐待についてもいろいろあると思います。松岡 虐待という言葉は合わないか

もしれませんが、家族の中で一人だけ聴覚障害者の場合、さみしい思いをすることはあるようです。私の家族は全員手話で話すので、そういうことはなかったのですが、同級生から聞いたことがあります。例えばテレビを見ているときに、親兄弟が笑っている。本人は聞こえないので、なんで笑っているのか理由を聞くと「あとでね」と言われてしまう。そういう経験がある方は多いですね。

市長 障害を持つていなくても、同じようなことは起こりますよね。悪気はなくても、人としての気遣いが、少し足りないのかもしれないですね。

松岡 聴覚障害者は外見では分かりにくいので、誤解されることがあります。お店で注文するときに、文字で書いて渡すとびっくりされてしまったり…。私が聞こえないのだと分かると、気を遣ってくれるので



対話は、市の手話通訳者が同席して進められました。
※市は聴覚障害のある人などに、手話通訳者や要約筆記者を派遣しています。費用は無料です。詳細は、手話通訳者は市社会福祉協議会 (FAX370-8854)、要約筆記者は障害福祉課 (FAX326-8876) へ。